

講義名	子どもの言語能力をどう捉えるか ～DLAの活用に向けて～	講座担当者	伊東祐郎(国際教養大学)
単位数	6	講義形式	講義、ワークショップ
実施日時	2019年7月27日(土) 10:30～16:10	実施会場	(公財)福島県国際交流協会 ZOOMによる同時受講及び録画による受講も可

講座の目標及び特に目指す受講者の知識・技能・態度

講座の目標

日本語を母語としない子ども達の日本語能力を測定する方法 DLA について理解を深める。
あわせて、DLA の結果から学習支援の在り方に関するヒントを得る。

特に目指す受講者の知識・技能・態度

知識 ② 子どもの言語習得や言語運用の特性に関し基礎的な情報をもっている。

技能 ① 子ども一人一人の年齢、ことばと認知面の力、文化的背景に応じて、日本語の学習活動を設計することができる。

③ 子どもの日本語および母語等の言語のちからを、多面的に把握することができる。

態度 ② 支援教室での様子に加え、学校・地域・家庭での日本語使用などにも目を向け、ことばの習得状況を捉えようとする。

※①②③は、本研修で設定した養成を目指す「資質・能力」の番号である。「[自己評価シート](#)」参照

講座内容

- 1 留学生の日本語教育と子どもの日本語教育の違い
- 2 受講者のプロフィールの確認
- 3 研修の流れの確認
- 4 研修後の課題の提示
- 5 日本語教師(児童生徒)に求められる資質・能力
児童生徒等に対する指導の前提となる知識／日本語の教授に関する知識／教育実践のための技能／成長する日本語教師になるための技能／社会とつながる力を育てる技能／言語教育者としての態度／学習者に対する態度／文化的多様性・社会性に対する態度
- 6 グループで話し合う(ワークショップ)
 - ①子どもたちの日本語能力の評価が<必要な時>はどんな時か
 - ②子どもたちの日本語能力を<どのように評価・判定>しているか
 - ③子どもたちの日本語能力の<何を評価・判定>しているか
 - ④子どもたちの日本語能力の評価結果を<どのように活用>しているか
 - ⑤子どもたちの日本語能力を評価判定するとき<困っていること>があるか
- 7 現状把握: ニーズ調査とその結果(DLA 開発の経緯)
- 8 課題解決のためのコースデザイン
目標をどのように設定するか／目標設定のための枠づくり／児童生徒の学びの実態／DLA の特徴
- 9 ブルームのタキソミー(知識／理解／応用／分析／評価／創造)
- 10 第1言語(母語)の習得過程
文法／音韻体系の構築／語彙の習得／話し言葉(音声言語)による言語獲得／言語環境の変化／書き言葉(文字言語)による言語習得／児童から生徒へ
- 11 第2言語の習得過程
言語習得の臨界期仮説／母語と年齢の役割／バイリンガル教育
- 12 言語習得のプロセス
- 13 DLA のねらい
- 14 DLA の構造
JSL 評価参照枠／技能別／実施について／使い方について
- 15 「はじめの一步」の DVD を視聴
- 16 ペアになって、「はじめの一步」を実践(ワークショップ)
- 17 書く DLA について

- 18 DLA の根底に流れる子どもたちへの支援の在り方
ダイナミック・アセスメント／発達の最近接領域(ヴィゴツキー)／DLA における「対話」の役割
- 19 振り返り

成績評価方法

講義への出席後または録画による講義の視聴後、課題を提出する。
他の講義と併せて、80%の出席と課題の達成度60%で修了証を授与する。

〔課題〕

- ①DLA を実践(「はじめの一步」その他の能力でも可)してみる
- ②DLA の冊子を読んでまとめる(対象となる子どもがいない場合)
- ①か②についてのレポートを提出。

参考書

- 『外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント』文部科学省編
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm
- 『外国人児童生徒受入れの手引き』文部科学省編
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
- 『学習言語とは何か』パトラー後藤裕子著、三省堂